

< 1 > アンコール遺跡国際調査団の研究・調査・保存修復および人材養成現場研修の実施について (第21次、第22次、第23次、第23次補足)

第21次上智大学アンコール遺跡国際調査団

期間：1997年2月27日～3月31日

場所：Angkor Vat 西参道、Banteay Kdei、Srah Srang 村、上智大学アンコール研修所、夕二村窟跡

参加者：石澤良昭(団長)

建築班 一片桐正夫(リーダー)、清水五郎、重技豊、崔炳夏、小杉孝行、荒樋久雄、深田ナビ

地質班 一 盛合禰夫(リーダー)、松村吉康

考古班 一 中尾芳治(リーダー)、花谷浩、宮本康治、丸井雅子

水利環濠班 一 ラオ・キム・リアン

1. 建築班

1) Angkor Vat 西参道 一 縦断レベル測量 断面図作成 立面図チェック

2) Banteay Kdei 危険箇所チェックとサポート作業 レベル測量

2. 考古班

1) Banteay Kdei 前柱殿南側2ヶ所

ラテライト基礎石の確認：木造家屋跡、陶磁器破片、瓦破片その他出土品多数

2) Tani 村窟跡の発掘 A3窟の発掘、窟構造部の解明 磁気探査(奈良国立文化財研究所)

3. 地質班

1) Banteay Kdei 一 石材の強度の調査

2) 石材(砂岩、ラテライトなど)の構成物質の調査

3) Angkor Vat 近隣の地質および地盤調査

4. 水利環濠班

1) Siem Reap 川の水質調査研究

2) 水利網の調査(州水利局と共同で)

3) Angkor Vat 環濠の水質調査

5. カンボジア人研修生養成プロジェクト(丸井雅子、崔炳夏)

1) 建築学研修生6名の現地訓練

2) 石工研修生9名の石材技術訓練実習

3) 考古学研修生6名の現地訓練

4) 考古学研修生2名の上智大学大学院への留学、準備と事前指導

第22次上智大学アンコール遺跡国際調査団

期間：1997年10月15日～12月31日

場所：Angkor Vat 西参道、Banteay Kdei、上智大学アンコール研修所、夕二村窟跡

参加者：石鶴良昭(団長)、酒井幸(副団長)

建築班 一 片桐正夫(リーダー)、崔炳夏、三輪悟、石津菜央、高橋正時、野中智子、井手直子(通訳)

考古班 一 上野邦一(リーダー)、丸井雅子

水利環濠班 一 ラオ・キム・リアン

1. 建築班

1) Angkor Vat 西参道 実測調査および図面作成 足場を組み立て立面図作成 断面図作成(継続)
エントランスと環濠の関係配置

- 2) Banteay Kdei 新 Inventory 作成 (継続) 清掃作業および植物などの一部除去 周壁の調査と点検
- 3) 研究内容 - クメール建築工法などの実証的研究

2. 第1回遺跡調査団ミーティング

日時: 1997年12月22日 午後9時~10時
場所: パイヨン・ホテル104号室

〈建築班

- 1) 研修生に対する対応 1998年3月16日に Apsara (Van Molyvan 大臣) と真如苑が契約書を交わす。その後 Apsara と協議する旨学生に伝える。留学の件言及しない。可能性はあるという。
- 2) 水抜き件 Oung Vang 所長に頼む。どのように抜くか、Tuon Chay 知事と Narang 大臣も動かす。12/22 調査の水路の件、給水口はある。Siem Reap 川へ排水口を見つけ、交渉してみることにした。
- 3) 次回アンコール・ワットの調査は1998年2/26から4/4まで。
- 4) 工事用車輻の日本からの運搬の件、右ハンドルは不可、次回に別の車を手配するかどうか。

考古インベントリー班

- 1) Banteay Kdei の Inventory 改訂版を作成する。調査シートは仏語、クメール語を書き込む。
- 2) Sambor Prei Kuk の件、丸/片雅子同行。
新しい遺跡群で EFEO がやっていた時よりも多くの遺構が発見されている。
図面づくり。新しく100カ所以上のグループあり。
測量機器を入れて新しくやり直し。94年 Ministry of Culture が全写真を撮った。
その他の遺跡の地下部を一部掘った。

3. 第2回遺跡調査団ミーティング

日時: 12月27日 午後8時30分~10時
場所: パイヨン・ホテル220号室

- 1) 建築班 - 西参道一トレーニングを兼ねて図面を作成しているので、その精度確認、図面すべて実測図チェック
外濠一水量減。雨季の水を排水できないかどうか
Banteay Kdei 祠堂塔部分の八チマキ、補強作業、遺跡見物...伝統技術を学習
- 2) 考古班 - 地図づくり Inventory 基地づくり 12/18には Preah Khan 寺院の調査を実施、
Ta Prohm 11/1~11/7, Kdei は日程の中で
レンガ...それぞれが違う Ak Yom
Kdei (前柱殿, 砂岩の側面) - カット・マークがあり、その楕円形の中央線の位置、石は Prasat Bay
どのように造ったのかの手掛かりの研究 Preah Ko - 水平線を打っている
- 3) 水質班 - 打ち合わせ: Conservation d'Angkor...副所長ヨン・チャンダーサー、副所長サリット
APSARA...ウググス・ヘン
水質検査: Siem Reap 川...スピン・トモ: JICA 水位調査
Siem Reap 川から...Wat は取水
研修所井戸...メコン・コミティーによって検査
- 4) 研修所整備班 - 研修所整備: 見積もり、家具 3月から使えるように、動きやすい形で整備する、
ナベ・ヤカンを購入、食器戸棚、井戸のブタ、作業小屋・屋根の工事着手、倉庫、
白蟻被害部分の改修、メンテナンス、木造修理
- 5) 事務局 - 伝統文化保存: Banteay Srei レストラン先の影絵芝居小屋、ティ・チェン座長 80オのところに日本人
福富さん弟子入り
Kdei: 石材の盗掘...状況調査、報告 UNDP-NGO ~ Mail Box
- 6) カンボジア人研修生養成プロジェクト (崔炳夏氏担当) - 建築家6名、カンボジア人研修生6名、
カンボジア人石工研修生6名

第 2 3 次上智大学アンコール遺跡国際調査団

期間：1998年3月4日～4月5日

参加者：建築班 — 片桐正夫（リーダー）、平山善吉、小杉孝行、吉留正人、崔炳夏、萩田セイヤ、藤井カズトシ、三輪悟、谷本・Chet Val

考古班 — 中尾芳治（リーダー）、宮本康治、菱田哲郎

窯跡班 — 青柳洋治（リーダー）、田中和彦、佐々木達夫、野上建起、丸井雅子

地質班 — 盛合禎夫（リーダー）、松村吉康、盛台佐知子

第 2 3 次調査補足

期間：1998年4月25日～5月25日

参加者：石澤良昭（団長）

建築班 — 片桐正夫、小杉孝行、吉留正人、崔炳夏、三輪悟

人材養成活動（カンボジア人研修生） -

考古学（日本）... Hor Sukuntheary（上智大学院地域研究専攻修士課程）、Ly Vanna（上智大学大学院地域研究専攻修士課程）、Ek Bunta（上智大学大学院地域研究専攻修一上課程）、

考古学（カンボジア）... Cahn Kanha、Keo Kinal、Nhim Suthavon、Kin Tep Moly、Som Visoth
建築学... Chahan Ratha、Mao Sokny Tat Sun Huot、Ung Nareth、Ung Simaro

石工 ... Sngat Yuon、So Sem、Uch Chit、Vanna Rat、Ho Tuch、Ko Sak、Lang Tang、Suong Tuch、Proeung Ras、Lach Doek、Phe、Phean、Duong Preap、Meas Nivat

< 2 > 上智大学アンコール研修所（以下研修所）整備について

かねてから整備中でありましたが、副団長酒井幸先生に上記の通り第 2 2 次の折ご出張（私費）いただき、整備計画に基づき宿泊できるようになりました。お知らせ申し上げます。

整備のための物品購入・設置・改善工事などは以下の通りです。

家具の製作（机、棚、本棚、謄写用机、図面保管庫など）、鉄製足場保管庫建設、ジェネレーター小屋・外便所の建設、1F廊下床改修、不朽材の取り替え、2F簾の設置、網戸の貼り付け、外壁一部塗り替え、高圧電線の設置、鉄柵の設置、敷地内外灯の設置、庇上部の亀裂の補修、非常用警報装置の設置、事務所内配線工事、屋根瓦取り替え、電話の設置、スチール製家具、寝具の購入、植栽の購入など、研修所外構計画（庭の設計）、恒常的なメンテナンス（外壁、屋根瓦、排水、電気設備、エアコン）、活動写真の展示（研修所内ポスターの作製）。

< 3 > アンコール救済委員会（以下救済委員会）解散について

救済委員会はここ数年実質的な活動を停止しておりましたが、1997年10月27日に解散と清算に向けての1997年度年次委員会が開かれて解散が決議され、1998年1月29日にすべての事務手続きを終え、解散に伴う財産処理案が承認され、正式に解散いたしました。

ご存じのように救済委員会は上智大学のイニシアティブのもとに1994年4月に宮・学・産の肝いりで発足いたしました。初期3年間は石川六郎会長（鹿島建設会長）のもとで上智大学に救済委員会の事務局を設置し、石津が事務局長・保存修復委員会副会長を、上智大学からは事務局員1名（事務職員）の派遣と事務室の提供を受け、さらに東洋エンジニアリング（株）から事務担当者1名（遠藤宣雄氏）の outgoing を受けて事務局をつくり、活発なアンコール遺跡救済の諸活動を続けて参りました。

最初は宮・学・産の協力という体制のもとに、上智大アンコール遺跡国際調査団の主導する救済キャンペーン活動が上首尾に進んでおりましたが、1996年に企画実行部会長の平山郁夫氏が会長石川六郎氏の退任を迫り、平山新会長体制が実現しました。

従って上智大学にあった事務局は（財）文化財保護振興財団へ移り、事務局長には同財団理事の谷氏が就任しました。

こうした経緯から上智大学には千原大五郎保存修復部会長と石澤同副部会長が担当する保存修復部会の事務局が残り、現在に至っております。

解散の理由は、国際文化交流担当室が主催する「アンコール遺跡保存事業連絡会」が1996年12月に設置され、救済委員会はその役割を果たし終えたという解釈です。実際のところは1996年上智大学アンコール国際調査団が手を引いて以来、カンボジアと直接的に遺跡救済の活動を遂行することができず、こうした専門的なアンコール遺跡救済のキャンペーンや援助・交流事業は実績を上げることができなかった事実があります。結局、国内における救済活動の内実は平山氏の絵画を展示することに終始し、専門家グループの協力なしにはカンボジア側と何も連絡できないことがわかり、投げ出したというのが真相です。

公式見解は以下の通りです。「アンコール遺跡の保存修復活動の一層効果的な推進を求めるため、官民含めた関係者間による意見の交換を行い、情報の共有および連絡調整を密に行うための場として、アンコール遺跡保存事業連絡協議会が内閣官房内閣外政審議室のもとに設置され、第1回の会合が1996年12月13日に開催されました。」

「救済委員会としては、このようにアンコール遺跡保存に関する協力団体が委員会設立時に比べ増加し広範囲になったことにより、我が国のアンコール遺跡救済事業について、政府が中心となって各機関が連絡協議を一元化するため、官民併せた連絡調整機関において行われるとともに、この委員会の活動が引き継がれることが望ましい」という見解です。

< 4 > アンコール調査室開設について

救済委員会の解散に伴い、これと別の形で「アンコール調査室」が上智大学アジア文化研究所付置機関として設置されました。アンコール調査室は前技術部会事務局をそのまま引き継ぐこととなりました。そして従来通り研修所の運営と調査団のお世話、種々の事務処理、カンボジア人留学生の受け入れ、『カンボジア文化復興』の刊行、ホームページの開設などがその主な業務であります。その他にもいろいろあります。そのために、事務職員1名（隅節子氏）、事務室（10号館613室）、電話、Fax、E-mailなどを従来通り使用することとなりました。

< 5 > Sahametrei 勲章の受賞について

Sahametrei勲章については、1997年12月に駐日カンボジア王国大使 Truong Mealy閣下から受賞決定の内報を受け、賜与される旨を知りました。その時点で勲章はパリで製作中でありましたが、勲記はすでに届いているとのことで、1998年2月6日（金）駐日大使館において伝達式が執り行われました。そして5月17日（日）シムリアップの離宮に参内し、親授式が執り行われました。この勲章につきまひては、前カンボジア日本大使今川幸雄閣下がご尽力下さり、実現いたしましたものでございます。親授式では今川閣下もご同席下さり宮廷大臣 Kom Sa Ol閣下から勲記の読み上げがあり、国王陛下が直接着衣に勲章を付けて下さいました。大変身に余る光栄に存じました。国王陛下からのお祝いの言葉があり、シャンパンで乾杯の後、石澤がお礼の言葉を述べました。大変おごそかで感動的な親授式でございました。

この勲章は小生がいただけるものではなく、調査団全員に下賜されたものでございます。これまでアンコール遺跡調査研究・修復における私たち調査団の活動に対して下賜くださったものです。この機会に先生方に御礼申し上げます。

以上
（文責 石澤良明）